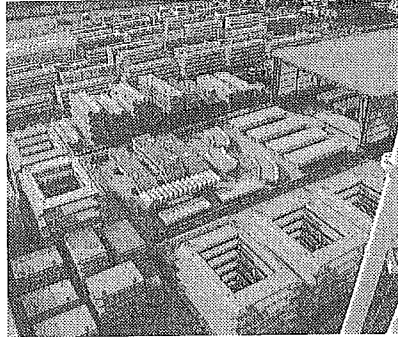


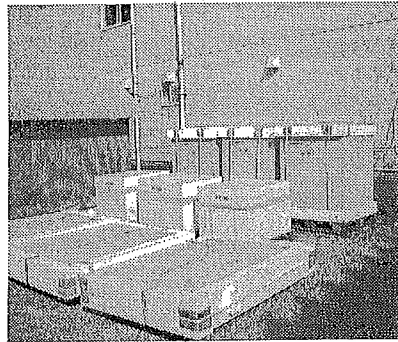
三暁プレコン 千歳工場で生産技術証明

国内で4例目 部材信頼性向上目指す

北海道のPCカーテンウォールメーカー、三暁プレコンシステム(札幌市、登坂仁社長)は7日、日本建築総合試験所(日総試)の「建築用PC製品のコンクリート生産技術証明書」を取得した。この生産技術証明は、同社千歳工場で生産する建築用PC製品に使用する高強度コンクリートの製造および品質管理システムを認定するもので、国内では4例目、PCカーテンウォールを主体とする建築部材メーカーでは初の証明取得となった。



千歳工場のストックヤード



試験用の模擬部材

同社は1958年に創業、PCカーテンウォールを主体として、柱・梁製造販売も手掛ける建築業、PCカーテンウォールなどの構造用PC部材の一用PC部材の老舗メーカー

1である。今回認定を受けた内容は、寒冷地に使用可能な凍結融解抵抗性を有するコンクリート。非耐力壁に分類されているものの、建築物の主要構造部としてのPCカーテンウォール(外壁)やバルコニー・スラブ部材などと、柱・梁等の建築構造部材を対象にした設計基準強度30N/㎡までの普及

通コンクリートと36×60N/㎡の高強度コンクリートの製造および品質管理システムに適用され、建築用PC部材全般をターゲットにしたもの。試験内容は、壁材などの板製品を想定した板状の模擬部材および柱・梁などを想定した大断面の模擬部材を、PC部材の製造および品質管理システムに則して製作し、破壊試験を行い、設計基準強度の数値以上であることを検証するもので、1年を標準期、夏期、冬期の3シーズンに分けて検証を行った。試験には準備期間も含めおよそ2年を要し、製作した模擬部材は45体を超える大変な検証作業となった。

同社の登坂社長は「一連の耐震偽装問題やコンクリートの高強度化に加え、工期短縮など様々な要因から建築用PC製品の応用拡大が進み、品質管理の重要性が問われている。また、製造業はどんなに優れた管理システムを持ってしても不良率0%を達成することはほぼ困難といえるが、日々限りなく0%へ近づける努力を怠らないことそのものが重要だ。それによってメーカーとしてエン지니어に安全で安心のできる製品の供給が可能となり、品質保証への自信がさらに高まって

『ものづくり』に携わる者として最高の喜びを勝ち得ることができると考え、今回の証明取得に踏み切った」と語る。さらに「第三者の目で確認頂くことにより、経営幹部や社員のものづくりに対する緊張感が増し、部材の信頼性の向上に役立つと考えた。50年にわたり培ってきたメーカーとしての基本を貫き、今後も120N/㎡までの高強度コンクリートにチャレンジしていきたい」と抱負を述べた。